

平成 2 4 年 第 3 回

江戸川区教育委員会定例会会議録

日 時：平成 2 4 年 2 月 1 3 日（月）午後 1 時

場 所：教育委員会室

委員長	土 田 アイ子
委員長職務代理者	吉 野 弘 保
委員	松 原 秀 成
委員	早 川 大 府
委員（教育長）	浅 野 潤 一

事務局	教育推進課長	土 屋 典 昭
	学務課長	住 田 雅 一
	指導室長兼教育研究所長	建 部 豊
	学校施設担当課長	永 井 博 史
	統括指導主事	荒 井 秀 樹

書 記	教育委員会事務局	
	教育推進課庶務係長	丸 山 継 典
	同 主査	岩 生 裕 治

	<p>開 会 時 刻 午後1時00分</p>
土田委員長	<p>ただいまから、平成24年第3回教育委員会定例会を開催します。本日は、1名から傍聴の申し出がございます。許可してよろしいでしょうか。</p> <p>〔「はい」と呼ぶ者あり〕</p>
委員長	<p>それでは、傍聴人の入室を許可いたします。</p> <p>〔傍聴人入室〕</p>
委員長	<p>日程第1、署名委員を決定いたします。本日は吉野委員と浅野委員にお願いいたします。</p> <p>日程第2、教育関係事務報告。報告第6号について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
土屋 教育推進課長	<p>報告第6号は教育委員会後援名義の使用承認についてです。毎年後援をしております、第36回わんぱく相撲江戸川区大会でございます。子どもたちの健全育成を目指して、社団法人東京青年会議所江戸川区委員会が開催するものでございますが、昨年は震災の影響で開催を取りやめております。</p> <p>今年は5月13日の日曜日、江戸川区スポーツセンターにおいて開催されます。区内の小学生が各学年、男女別にトーナメントを行い、優勝者は東京都大会にも出場できるというものです。よろしくお願いいたします。</p>
委員長	<p>何かご質問等、ご意見等ございますか。よろしいでしょうか。</p> <p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p>
委員長	<p>それでは、報告第6号について了承いたします。続いて、報告第7号について、事務局から説明をお願いします。</p>
建部指導室長	<p>今年度の3月19日と22日に行われます中学校・小学校の卒業式でのお祝いの言葉について説明をさせていただきます。</p> <p>区長と教育委員会の連名によるものということで、区長にも内容を見ていただきました。今回の趣旨は、東日本大震災が発生して1年が経ち、この間、</p>

<p>委員 長</p>	<p>江戸川区の子どもたちもいろいろな形で被災地の支援をしておりますが、そういった視点も踏まえて、貢献ということを一つのキーワードとしたメッセージとしてまとめたものでございます。</p> <p>お読みいただいて、お気づきの点がございましたらご指摘いただければと思っております。以上でございます。</p> <p>ご意見、ご質問はよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、報告第7号については了承したいと思います。続いて、報告第8号について事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>建部 教育研究所長</p>	<p>第3回不登校対策会議について、記録をもとに報告させていただきます。</p> <p>以前お話ししたように、今年度からこの不登校対策会議は、これまでの月1回開催から学期に1回の開催とし、より不登校の子どもたちへのフィードバックができるような議論を中心に行ってまいりました。</p> <p>今回は第3回、年度最後の開催になりますが、研究所で今年度から取り組みました登校サポートボランティア活用事業、ステップサポーターについての状況報告がありました。これは成果を上げているということで、新たな江戸川区独自の取り組みとして、これからも進めていきたいと考えております。</p> <p>なお、課題としては、ステップサポーターが家庭訪問や、場合によっては学校での補習というかたちで成果を上げている半面、学級担任など、本来であれば一義的に子どもにかかわらなければいけない教員や学校のかかわりが薄れてしまっているということがあります。このバランスをどうしていくかということについて、我々も校長会等を通じて発信していきたいと考えています。</p> <p>それ以外の報告、協議内容は資料のとおりでございます。以上です。</p>
<p>委員 長</p>	<p>ただいまのご説明をうけて何かご質問はございますか。</p>
<p>吉野 委員</p>	<p>資料の真ん中あたりに、CMSが導入されたとあるのですが、これは何かのシステムなのですか。</p>
<p>教育研究所長</p>	<p>ホームページを手軽に更新できるシステムです。これまで学校ホームページの管理を調査研究室が支援しておりました。従前のソフトを使っただけの更新は知識も必要で、なかなか更新が行われない学校についてチェックしたり、職員を派遣しての支援を行っておりました。これがシステム導入で専門知識</p>

教育推進課長	<p>を要求されることがなくなってまいりましたので、調査研究室のホームページ支援の機能を縮小し、問題行動や不登校の子どもの情報分析という、本来の機能をより充実していきたいということを私から説明いたしました。</p> <p>従前のソフトは専用の端末で使用していたのですが、CMSは一人一台配備の学校LAN端末や、携帯電話からも更新可能です。例えば林間学校の現地から写真を貼りつけることも非常に手軽にできるシステムです。</p> <p>操作しやすくなったということで、更新頻度も大分高くなったということです。</p>
松原委員	<p>ステップサポーターとの情報を担任が共有できると担任も心強いはずなのですが、サポーターに学校においていただいて、時間をあわせて話を伺うというのは、現実的には大変な部分もあるかと思えます。そうするとやはり管理職が、ということになりますので、校長会などでサポーターともっと深くかかわっていくことを、ぜひご指導お願いしたいと思えます。</p>
教育研究所長	<p>今はこういうものを配置しておりますが、松原委員もご存じのように、かつてこうした制度がなかったころは、学級担任が悩みながら家庭訪問をしたりしながら不登校に取り組んでいました。これはある校長先生の情報ですが、若い教員から、「校長先生、クラスで不登校が出たのでステップサポーターをお願いします。」と言われたそうです。本来はまず自分が動いたうえで、サポーターにどういう役割を担ってもらうかという相談であるべきなのに、不登校が出たらステップサポーターが対応してくれるものだという認識に直結してしまうとなると、制度は制度として有効だとしても、教員の資質向上面の課題が出てまいります。</p> <p>これに対しては、まずは学校の教員が家庭訪問するなりして、その次にどうステップサポーターを活用するかという判断をお願いしたいと校長会等でも話をしている状況です。</p>
早川委員	<p>今年度の対策会議は終わりですが、数値的な評価はどうなのでしょう。成果を上げているということは減っているのですか。</p>
教育研究所長	<p>最終的な不登校の生徒数は3月31日でまとめる形になりますので、あくまでも途中経過ですが、この会議の時点では、個票の数でいうと前年度より50名ほど不登校の数が減っております。2月、3月で増えることもありえ</p>

	<p>るので決してそれで安心できるものではありませんが、一つの効果というふうには見ております。</p>
早川委員	<p>全体で何人ぐらいですか。</p>
教育研究所長	<p>22年度は730名でした。例年600名から700名で推移をしておりましたので、22年度は増えたこととなります。そういうこともあり、ステップサポーターが早目に対応していくという方法をとったという背景もあります。学校サポート教室や不登校の個票の状況等の統計は、まとまりましたらあらためてご報告をさせていただきたいと思っております。</p>
吉野委員	<p>ステップサポーターについては、もちつきなどの行事にも一緒に参加して、子どもたちとのつながりを持ってもらっています。来年度以降もぜひ力を貸してもらえるように続けてほしいと思っています。</p>
委員長	<p>吉野委員と一緒にもちつき大会の現場に行きましたが、サポーターの方と子どもの間はかなりいい人間関係ができているのが伝わってきました。</p> <p>サポーターが「ごちそうさまを言わなくてはいけないよ」というと、その子どもが、もちをついてくれた人や、小松菜のお汁をつくっている人のところにあいさつしに行ったのを見ました。こういう効果が出ているので、この事業は地道に続けていかななくてはいけないなと思いました。</p> <p>他にございますか。</p> <p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p>
委員長	<p>それでは、続いて報告第9号について事務局からお願いします。</p>
教育研究所長	<p>1月のいじめ電話相談の報告をさせていただきます。1月の電話相談は2件でした。どちらも母親からの相談で、1件が小学校3年生の女子児童、1件が小学校1年生の男子児童です。</p> <p>小学校3年生については名前もわかっておりまして、既に、教育相談室で保護者ともども相談を受けているケースですので、継続して対応しているところです。</p> <p>小学校1年生のほうは、匿名で学校も特定されておりません。相談内容は、クラスの中に暴力的な子がいて、自分だけではなくて、回りの子どもにも手</p>

	<p>を出したり、暴言を吐いたりしているということで、何とかならないかというものです。これはいじめというより、学級経営の問題もあるかなと思いますので、学校名等が判れば職員の派遣もできますというかたちで、話をつなげている状況です。以上です。</p>
委員 長	<p>今の報告にご質問はございますか。</p>
吉野 委員	<p>小学校1年生の男の子のほうですが、間接の言葉のいじめとあります。この定義には、ネットの書き込みとかメール等通信手段を用いた言葉のいじめも含まれていますが、小学1年生のお子さんでも携帯電話を持っていたりということがあるのでしょうか。もしそうであれば、子どもだけではなくて大人のほうが気をつけてあげないといけませんよね。</p>
教育研究所長	<p>これは、他の子たちが自分の悪口を言っていたということを聞いたというものを間接としてカウントしております。 インターネットやメール等ではございません。</p>
委員 長	<p>確認ですが、小学校・中学校には携帯電話を持ってきてはいけないのですね。</p>
教育研究所長	<p>都内すべての小・中学校で禁止になっております。都教委でそういう方針を出しております。ただ、所持については当然プライベートですから、これを禁止するものではありません。</p>
委員 長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>〔「はい」と呼ぶ者あり〕</p>
委員 長	<p>それでは、日程第3、議題に入ります。 はじめに、継続となっております平成23年陳情第3号を議題といたします。ご意見等ございましたらお願いします。 先日の文教委員会で、牛乳の放射線量について業界で調査して公表するといった話が出ておりましたが、分かる範囲で少し詳しく教えていただきたいのですが。</p>

住田学務課長	<p>学校給食用牛乳の放射線について各乳業メーカーで測り、それを公開してほしいということを、23区の学務課長会が東京都を通じて要望し、その後区長会でも農林水産省などに要望したということもありまして、結果として、牛乳メーカーでつくる乳業協会で検査をして、その結果を発表するということになりました。それで、各メーカーが実際に測定を行って、いずれも規制値以下だったという発表を出したということです。</p>
松原委員	<p>新聞各紙にも出ていましたね。その中で、業界側ではこうした数値を公表する方向になってきていますが、数値は冷静に見てもらいたいというふうに新聞には書いてあるのですね。私もそうだなと思います。冷静に見ていく必要がありますね。</p>
委員長	<p>ほかにいかがでしょうか。</p>
浅野教育長	<p>前回の審査から今日までに、何か国の動きで変化はありますか。</p>
学務課長	<p>特にはありません。</p>
教育長	<p>なければ、私としては継続でいいかなと思います。</p>
委員長	<p>継続というご提案がございましたが、いかがでしょうか。</p> <p>〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕</p>
委員長	<p>それでは、本日も継続ということにいたします。</p> <p>次に、第8号議案を議題といたします。事務局から説明をお願いします。</p>
指導室長	<p>第8号議案、平成23年度の授業の達人の候補者案について説明させていただきます。</p> <p>今回、小学校3名と中学校1名の教員を候補に挙げさせていただいております。この授業の達人は、平成17年度からスタートした事業でございまして、これまで小学校43名、中学校30名を選出しております。</p> <p>選出方法は、各学校の校長先生、区教育研究会の各部長から推薦をいただき、研究論文を出していただいてその内容を審査いたします。さらに、指導主事が2名体制で各学校を訪問して、授業、指導計画等を幾つかの基準に</p>

	<p>照らし、一定以上の評価ができる教員について、候補として挙げております。</p> <p>それぞれ授業計画もしっかりしており、子どもたちの反応をきちんととらえながら、授業に子どもたちが平等に参加の意識を持てるようにという工夫がされておりました。</p> <p>なお、この授業の達人に選ばれますと、今後、授業力アップの委員会にメンバーとして入り、区の若手教員の育成に携わっていただくという仕組みになっております。以上です。ご審議いただければと存じます。</p>
委員 長	ただいまの議題についてご質問、ご意見はございますか。
早 川 委 員	年齢や教員歴は何年くらいなのですか。
指 導 室 長	皆さん主任教諭以上ですので、30代半ば以上、10年以上の経験があると見ていただければと思います。
松 原 委 員	例年、こんな人数でしたか。もう少し多いような気がしたのですが。
指 導 室 長	各学校からの推薦の数によるということで、去年の半分ぐらいの人数となっております。
松 原 委 員	少し残念だなと思っているのですが、このあたりの動向というか背景に何かあるのですかね。
指 導 室 長	<p>この年代、30代半ばから40代前半の主任、主幹クラスの教員の絶対数が少ないということが、まずあげられます。これは、管理職選考の倍率が下がっているのも同様の背景がございます。</p> <p>この年齢層は、若手育成にとって年が離れ過ぎないミドルリーダーですので、できるだけ掘り起こしたいところなのですが、一番人数が少ない世代ということです。</p> <p>これが20代になると、昨今、初任者が増えておりますので数が増えるという状況となっており、これは全都的な傾向でもあります。</p>
吉 野 委 員	先日の区教研の発表を見ても、先生たちが一生懸命授業のやり方を研究している様子がわかりましたし、若い先生たちがそれを学ぼうという姿勢もよく拝見します。

指導室長	<p>以前、達人で表彰された先生も、やがて定年になったらいなくなりますので、こういう達人として表彰されるような先生が増えてくれるといいなと思います。</p> <p>若い先生がたくさんいらっしゃるのはいいことですが、これまでの経験などがきちんとOJTなどで伝えられる形が必要かなと思います。</p> <p>おっしゃるとおり、この中堅層をどう伸ばすかというのは江戸川区だけでなく、都内すべての自治体の課題であります。</p> <p>中堅層を育成することが、結果的に若手育成につながるということで、江戸川区としましては、来年度、ミドルリーダー研修というものを新たに設置いたしました。各学校の中堅層で将来学校の中核を担ってほしい人材を対象おこなうものです。</p>
委員長	<p>なかなか管理職に挑戦する方が少ないという話も聞きます。これも大きな課題だと思います。東京全体でもそうなのですよ。</p>
指導室長	<p>管理職選考では、江戸川区は毎年一定程度の数の候補者を出している状況で、そういう意味では、各学校で中堅層を育成していただいているということだと思います。これは都からも評価をいただいているところですので、今後も、授業の達人のような取り組みをすすめながら、将来の管理職候補者を育成していきたいと思っております。</p>
委員長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>〔「はい」と呼ぶ者あり〕</p>
委員長	<p>それでは、第8号議案は原案のとおり決定いたします。</p> <p>次に、第9号議案を議題といたします。第9号議案は人事に関する案件であるために、江戸川区教育委員会会議規則第13条に定める秘密会により審議したいと思います。この発議に賛成の方は、挙手をお願いします。</p> <p>〔全員挙手〕</p>
委員長	<p>賛成多数ですので、これより会議は秘密会とします。傍聴人は退室をお願いします。</p>

[傍聴人退室]

[以下、秘密会のため非公開]

[第9号議案の審議終了]

以上をもちまして、本日の議題はすべて終了いたしました。ありがとうございました。

閉 会 時 刻 午後1時36分